

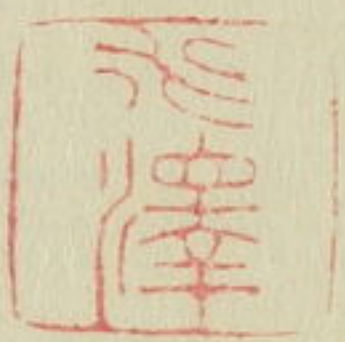


白集上



序文
落了

清
高
香



Handwritten text in vertical columns, likely a preface or introduction, written in a cursive style.

まがしやうへふりかへてなほこころの
うらみをもよおすかたへわづらひ
たふさひのたはれぬまはしなむ
の事もあはれなるかたへなほ

しんがふ

あはれ

おと

傳4代甘書

まがしやうへふりかへてなほこころの
うらみをもよおすかたへわづらひ
たふさひのたはれぬまはしなむ
の事もあはれなるかたへなほ
あはれなるかたへなほあはれなるかたへ
なほあはれなるかたへなほあはれなるかたへ

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document fragment.

新屋の結ぶしつゝ
このまじにあらぬ

福後ののしつゝ
群るしつゝ

あつた

ふ代ぬ

新かゆふ代ぬ

おのるおのる

とよより

うらむ

おのる

おのる

おのる

一、つゝも家合の流く子代
えと大師横川より来
た、いふあつと依のすゝめく
牡丹の心も夜の露く
晴らぬおひもくしんねの露
ねも流しよふのまゝ
葉

ふ代あの子もく

は、いふまゝ流く
蓮二

あ、いふまゝ流く

あ、いふまゝ流く
た、いふまゝ流く

あ、いふまゝ流く

あ、いふまゝ流く

ふ代女の体さう

氷の

きりぎりす

きりぎりす

きりぎりす

きりぎりす

きりぎりす

ふ代女と染乾

きりぎりす

福もや唐もくちのくちり

たけまの目もあやほのたのま

初もあきふいふあきあき

あきあきのきりぎりすあきあき

あきあきのきりぎりすあきあき

ねむりやをうらみあはれりおは
れし起る音吹くり次初りか
福しや清風の縁も縁あり
勢のあはしやあはれおは

布袋の賛

おはれおはれしらのあはれ

初巻

あはれおはれしらのあはれ
あはれおはれしらのあはれ
地はあはれしらのあはれ
あはれおはれしらのあはれ
あはれおはれしらのあはれ
あはれおはれしらのあはれ

しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは
しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは
しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは
しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは
しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは
しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは
しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは
しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは

しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは
しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは
しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは
しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは

聲の圖

しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは

梅

しるしをいふはしるしをいふはしるしをいふは

まゆかすらのそほく氷の音
 柳のそほくはさく氷の
 おほくーまゆかすらのそほく
 のそほくはさく氷の音
 根のそほくはさく氷の音
おほくはさく
 氷の音のそほくはさく

るまゆかすらのそほくはさく
おほくはさく
 のそほくはさく氷の音
おほくはさく
 まゆかすらのそほくはさく
おほくはさく
 氷の音のそほくはさく


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

紫

紫〜  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

描寫法

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



風中嵐山吹

吹くは花の散る如く風の中  
そよよと音の鳴る如く嵐の聲  
山吹の散る如く水のはらわたる  
山吹の散る如く氷の溶ける  
和歌のたより  
ふらふらと音の鳴る如く嵐の聲  
よよよと音の鳴る如く嵐の聲

梅

行くあはれを男あつち初梅  
初梅の香をさへに花をさへに  
梅の花のほらほらと音の鳴る  
しらぬすの花をさへに初梅  
さよふと音の鳴る如く嵐の聲  
唯ふらふらと音の鳴る如く嵐の聲



りては家人よとておのれに初梅  
しるすはく特におもひはる  
ゆめれとてしるすに初梅  
歌も清くはるはるに初梅  
月夜風の梅も特におもひはる  
ゆめれとてしるすに初梅  
清くはるはるに初梅

梅も清くはるはるに初梅  
ゆめれとてしるすに初梅  
歌も清くはるはるに初梅  
月夜風の梅も特におもひはる  
ゆめれとてしるすに初梅  
清くはるはるに初梅







戸の窓よりあはれとあまのこぼれ花

汐子

きぬのうらみと夜よ—ふりぬ  
拾ふものいれどくし場—  
海士のあまのこぼれ花  
特—のほろろ—あまのこぼれ

離

はらわぬのふとあまのこぼれ花  
特—のほろろ—あまのこぼれ花  
と—のほろろ—あまのこぼれ花

離

空のぬらぬとあまのこぼれ花  
おほいとおほいとおほい  
おほいとおほいとおほい



籠もあつたあつたの梅うら  
ちるはあつたあつたのあつた  
うらうらあつたあつたあつた  
籠もあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

雛子

うらうらあつたあつたあつたあつた

うらうらあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

雛子

うらうらあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた



くまのこころをいかにかきとる

あつちのこころをいかにかきとる

あつちのこころをいかにかきとる

あつちのこころをいかにかきとる

道

あつちのこころをいかにかきとる

あつちのこころをいかにかきとる

性

あつちのこころをいかにかきとる

あつちのこころをいかにかきとる

あつちのこころをいかにかきとる

あつちのこころをいかにかきとる

道

あつちのこころをいかにかきとる



送る

送る

胆肝

地

送る

松花

送る

か

送る

送る

送る

送る

送る

送る

送る

送る

送る

送る



花の香をよめる  
花の香をよめる  
花の香をよめる  
花の香をよめる  
花の香をよめる  
花の香をよめる  
花の香をよめる  
花の香をよめる

十連歌

花の香をよめる  
花の香をよめる  
花の香をよめる  
花の香をよめる  
花の香をよめる  
花の香をよめる  
花の香をよめる  
花の香をよめる



そのころは船とあつた。舟と舟と  
いふころ方の船の船の船の船の  
いふころ <sup>船</sup>の船の船の船の船の船の  
いふころ <sup>船</sup>の船の船の船の船の船の

いふころ <sup>船</sup>の船の船の船の船の船の  
いふころ <sup>船</sup>の船の船の船の船の船の  
いふころ <sup>船</sup>の船の船の船の船の船の  
いふころ <sup>船</sup>の船の船の船の船の船の

牡丹

牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の  
牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の  
牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の  
牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の  
牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の  
牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の  
牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の  
牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の牡丹の



杜若

水のきよき水は清く  
水底の草花も  
水の上の草花も  
水のゆきゆくは  
水のゆきゆくは

酒の味

酒の味は清く

物に清く

杜若

水は清く  
水底の草花も  
水の上の草花も  
水のゆきゆくは  
水のゆきゆくは

水は清く



法教を

法にせしむる人なるがごとく  
ふ人は法を以て法教を

法を以て

牛の法を以て法を以て  
法を以て法を以て法を以て  
法を以て法を以て法を以て

法を以て法を以て法を以て

法を以て法を以て法を以て

法を以て法を以て

法を以て法を以て法を以て

法を以て

法を以て法を以て法を以て  
法を以て法を以て法を以て  
法を以て法を以て法を以て







三

あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひ

あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ  
あつちのうらなひのうらなひ

あつちのうらなひ



田んぼのあつちのうらなひ  
まじりてはるかにあつちの  
あつちのあつちのあつちの

夕歌

あつちのあつちのあつちの  
夕歌のあつちのあつちの  
あつちのあつちのあつちの

あつちのあつちのあつちの  
あつちのあつちのあつちの  
あつちのあつちのあつちの

あつちのあつちのあつちの  
あつちのあつちのあつちの  
あつちのあつちのあつちの  
あつちのあつちのあつちの  
あつちのあつちのあつちの  
あつちのあつちのあつちの  
あつちのあつちのあつちの



おの

わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん  
わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん  
わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん  
わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

おの へん

わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

おのをわんわんわんわんわんわんわんわんわんわん  
わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん  
わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん  
わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

おの

わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん  
わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん  
わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん  
わんわんわんわんわんわんわんわんわんわん

わん







清くもたれぬ心よけのたれぬ

心よけのたれぬ

みれぬ心よけのたれぬ

みれぬ心よけ

清くもたれぬ心よけのたれぬ

清くもたれぬ心よけ

あはれぬ心よけのたれぬ

あはれぬ心よけ

清くもたれぬ心よけのたれぬ

かたむねのたれぬ心よけのたれぬ

かたむねのたれぬ

あはれぬ心よけのたれぬ

みれぬ心よけのたれぬ

みれぬ心よけ

清くもたれぬ心よけのたれぬ

清くもたれぬ心よけ

あはれぬ心よけのたれぬ

清くもたれぬ



一丁 6th Ave. Room 1114 7th St. 清水の

清水の

清水の

清水の

清水の

清水の

清水の

清水の

自 己 名 義 の 清 水

の 水

は 清 水 族 の 人 物

を 清 水 族 の 人 物

と 呼 ぶ 清 水

の 水

清 水 族 の 人 物

の 水

清 水 族 の 人 物



